

女子力系生

11
月号



迂回
はだし
スコラブ
ナイス害
恋をしている

Kobayashi
11.10

表紙イラスト・千原こはぎ

【目次】

連作

「スワイプのコツを教えて」・・・・・・・・迂回

「君がいない時」・・・・・・・・ナイス害

「負け越せば朝」・・・・・・・・はだし

「15」・・・・・・・・スコラブ

「自殺サークル『明日の街』だより」・・・・・・・・恋をしている

短歌未満

編集後記

スワイプのコツを教えて 迂回

着飾った落ち葉けとぼしブーツにはおそろく足が詰まっていそう
したためた文字はとろけて今ごろはきみの脳血液閘門

歩く人この指止まれ 不用意に深く握れば小雨の気配

5リットルの容器と2リットルの容器でハッピーペースデイをはかつて

シャー芯をさらにするどく研いでいる手つきに髪を触れられたこと

ダッシュボードにチョコを置く癖がある アルフォートが可哀想さ1位

水星はあまりに蒼くなんて嘘 液晶フィルムカバー作文

胎教にきつといいよねAMの5時が好きとか14時だとか

うつくしきさるすべりえん えいえんにえいえんにもうえいえんにもう

凍らせたオートミールはきれいって予想の当否決めかねている

君がない時

ナイス害

ブラジヤーの真ん中にあるリボンつてほどけないんだと初めて知った

コンビニの綺麗なトイレを探し当て君の財布はズシリと重い

女湯の暖簾から出る寿司を見て縁側で茶を飲みたいと思う

助手席の温もり頬で感じれば桃太郎のエンディング忘れる

アルバムの笑顔を指で拡大し鼻と口だけトリミングした

物ためとき思い出すのはコンビニの綺麗なトイレで用を足す君

好きな人でできました好きな人でできましたと別れる練習と、海

負け越せば朝　　はだし

背すじをしゃんとすれば窓の向こうには隣のビルの壁面である
空想のクッキーを食べはじめたらとまらなくなって　いま何曜日？
そういった現実も切りとれそうな布切りばさみのたしかな重み
死んだってドアノブはありドアノブのむこうの部屋に面影はある
親指と人差し指をくっつけて　ああ、おれはいまローラのつぼみ
グーとパー繰り返し返して眠くなったら負けのゲームを負け越せば朝
しずかなしずかなしずかなしずかなる廊下の奥に立ってみた俺
振り向けば面影どころか「その位置に枕かよ」ってさっきのおれへ
階段が終われば右のリビングの金魚鉢へとひかりは満ちて

おれのなか黄道十二宮がありさかさまピースサイン、ふたこ座

しろがねのA1サイズフレームよ傷もボウイのようにかがやけ

悪くなく良くも生きてはいないから煙草を一本もらってむせる

ロシア人だったこともあるおんなのこ母のジャムが美味しけりゃいい

このitをY字路だつて考えて海に近づく方へ行こうか

関内と桜木町の間にて忘れ去られたピタゴラスなど

コンビニの光繋いできんいろの轍となつて素数になつて

いつだかのけむりになつたたましいはあめをふらせてきみにのまれた

はんぶんの魔法の水がふたつあり満たしあうことくりかえす とわ

ぼくたつは、いいまちがえた、ぼくたつは、いいまちがえた ああもうキスだ

着地せよ開脚姿勢の星形で愛されなかつたださいおれたち

自殺サークル『明日の街』だより

恋をしている

幾千の画紙が光る長椅子に倒れこむルカから夜桜

タカフミは燃えるテントで一人きり 好きだった子は季節の名前

ジェット機に舌をくくりつけ春に実る野菜をつぶやくフミエ

肛門に猿の赤ちゃん住まわせてヤスが最後のキューを磨いた

自殺した人が僕でもあなたでもホームに滑り込む「明日の街」

つきあかり 何でも話せる夜になるルカが散って読める小説

タカフミの名前が検索窓にあり花火の音に合わせて消した

芽キヤベツが運命論の夜だった 史恵が美しい水を吐く

本名を思い出せないこともまた海へ向かった理由にしたい

僕たちは死んでばかりのピリヤード場経営者 そして 11月

短歌未満

短歌じゃない。

けど、短歌に見えなくもない。

行き処のなくなった言葉たちへ。

6×9=53+1

「ロックはゴミよりも上」という意味で、昔サブカル音楽雑誌で見つけた言葉です。ロックって今やカテゴリーが広すぎてジャンルとして成立してないけど、あのほとぼしる熱いパトスは、必要悪の前頭筆頭として、青年の魂に君臨し続けるのでしょうかね。

(ナイス害)

ゆかごはん

これは僕がtwitterでフォローしている方のある日のつぶやきで、この言葉と一緒にコンビニのおにぎりとかサラダが床に置いてある画像があがっていました。本来床にごはんを広げて食べるという行為は汚いことかもしれませんが、「ゆかごはん」と言われると僕は「ゆかごはんは良いな」と思ってしまいます。「ゆかごはん」は床にご飯を広げて食べることを意味して多分それ以上の意味はないんですが、その日一日中僕は「ゆかごはん」の事を考えて仕事をし、食堂でお昼を食べ、また仕事をし、電車に乗って家へついてパソコンを開いてその時に再び「ゆかごはんは良いな」と思ってしばらく光る画面を見つめていました。後にも先にもtwitter上でこんなに魅了された言葉はありませんでした。

(恋をしている)

「良かったな。新宿で死んだ男として名が残るぞ」

仲間数人と新宿は歌舞伎町に飲みに行き深酒をした末、ひとりが泥酔して倒れたときに他の友人が介抱をしつつ言い放った台詞です。

実際は酔っぱらいがひとり新宿で死んだとしても、名が残るものにもないわけですが、そこには「俺はお前とこの夜を忘れないぜ相棒」的になかっちゃ良さがあるわけですね。吐瀉物にまみれながらも。

もちろんこれを第三者から見たら「なに馬鹿やってんだ」という話なんですが、複数人で気持ちが高揚しているときは、アルコールの有無にかかわらず、こういうちょっと「冗談で作った」ような台詞がぐっときたりするものです。

詩性を持たない文章に比べて、意識無意識にかかわらず、パッケージとして見ることができるというのが詩性のある文章だと個人的には思ってるんですが、これは完成度が高く、なんなら値段をつけて売りたいと思ったりします。100円ぐらいで。

このような泥酔時の名言には、他に「この階段を落ちたら、最高の思い出にならないかな」などがあります。

(スコラブ)

「あたらしいないかくそうりだいじんは だあ
～れだ」 「え～っ たけした、たけしたけ
いこ」

バカ兄弟の受験

ドリフです。

知ってる人は知ってる、いかりやさんと仲本さんが、ばかな兄弟をやるコントの冒頭。弟（仲本さん）がひとりで家にいると、ドアをノックする音がして。「おれは兄だ」と言い張る相手（いかりやさん）に確信を持ってない弟がつかった合言葉とそれへの返答なんですが、ばかですね。ほんとは竹下登かな。景子は女優さんですね、古っ。ないかくそうりだいじんのなまえって、ばかな兄弟にしてはちょっとがんばったのに。そのがんばりが最後までいきとどいてなくて、たけしたけいこになっちゃったり、しかもそれが正解になっちゃったり。このふたり、なかなかです。おぼえまちがえしちゃってるんだけど、でも、ふたりのあいだでは「これ」が信頼の証になっているのがいいですね。このやりとりで、ほんとにあんちゃんかな～、ってうたがってる弟が確信を持つんです。やっぱりあんちゃんだ！ってドア開ける弟のうれしそうなお顔ったら！！

こういうのってふつうなら絶対ボツにするフレーズだと思います。こんなのが合言葉だなんてふざけてます。とってもばか！すごくばか！でもかれらはたぶん、迷いなくこれを生活に取り入れていそうです。これを選んだんです、ふたりの合言葉として、これを。そのことが、この一見するとくだらない掛け合いを、その役割以上の、とてもきらきらしたなにかに押し上げてる気がします。こういうの、なんか詩っぽくないか、っておもいます

（はだし）

そばにいてくれるだけでいい。今夜麻婆豆腐を縦に積む。

(ネタボケライフ第1692回 お題『ボスが言った耳を疑う命令』 カシスさんの作品)
<http://bokelife.revinx.net/result.cgi?stage=1692#2888>

大喜利のネタは実は詩性を帯びがちです。

お題からの距離をじりじりと測りながら出来上がった言葉は、
たまに大喜利の枠から逃れようとしてるように見えることがあって、
そういうネタは色んなものを打ち壊す存在感をもってそこにあるように見える。

「この文章はあなたを笑わせようとしているのだ」なんていう表情をまるでせず、読み手に殴りかかってくる。

そんなイメージのネタに、たまになんだけど滅多にってほどでもなく出会います。紹介させていただいたのはそのひとつで、今回ぱっと思い当たったものでした。

ネタの前半だけでも大喜利としては成立するし、後半だけで「縦に積み」ってしても成立するんですね。

ただどっちの場合も詩性は無いように見える。

完成形になると、文章が大喜利のネタであることを拒否してるみたいに
当たり前なことだろうって顔して迫ってきて、その確信が詩的なんじゃないかなーと思います。

そういう強固さがあるネタって、往々にして「この文章は詩である」と自覚している文章を陵駕した詩性を持ってたりして、更に大抵ネタとしても相当面白いので、作るものは大喜利にせよ詩にせよそこを越えて行きたいなあと考えたりします。

(迂回)

【編集後記】

短歌未満という企画で今回はなんたる星のメンバーがどんな言葉を好きなのか、僕個人が知りたくて始めたんですが皆それぞれに美しいと思うことはあって面白かったです。でもやっぱり共通しているのはみんな少しだけ「カッコ悪い」言葉を選んでいるところで、大喜利をやっていたメンバーならではというか、そこがなんかよかった。なんかよかったって僕はよく言いますが、なんかよかったってなんか曖昧などちつかずな言葉でなんでやねんと思う人もいるかと思うんですけど僕の中ではこれが最大の賛辞です。これ以上はないと思います。大喜利なんかでもよく「あれそれこれがこうだから良い」とか一番最悪なのになると「ここが上手いよね」とか、僕はあんまり言われても嬉しくなくて、やっぱり一番うれしいのは「よく分かんないけど何か良いね」という言葉。理由はなく、共感でもなく、とにかく訳の分からない力があなた私誰かに働いてそれが良いのよ、と。そういうのが一番なんか、良い、と思いました。小学生でした。

2014 11/3 恋をしている

続く言葉の中に太陽のチェス盤、星の駒、月のドミノピザに注文を――

執筆者

はだし([@sunsetsan0](#))

ナイス書 ([@NiceGuuuy](#))

恋をしている ([@yayoikenumai](#))

迂回 ([@ukaian](#))

スコラブ([@scope_scape](#))

なんたる星 11 月号

発行日：2014年11月3日

編集発行人：恋をしている

表紙/裏表紙絵：千原こはぎ ([@kohagi_tw](#))

Twitter：[@nantaruhoshi](#)

Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp

似合わないことがしたくて手始めに孤独な星を耳に棲ませる (千原こはぎ)

